



千申「第34回定期大会」の発言に踏まえた申し入れ その6

6. 「電気部門の変革2022」により、新たにTEMSへ委託したエリアにおいて、輸送障害発生時にTEMSへ単独での出動を要請した回数を明らかにすること。また、「空振り覚悟」という名目のもと、同エリアで発生した軽微な障害にもJRが出動している事象もあることから、施策の趣旨に則りTEMSが単独で対応することを基本とすること。

【議論内容】

- (組合) 「電気部門の変革2022」により、TEMSに業務委託したエリアに、JRが出動した回数を明らかにすること。
- (会社) TEMSに委託したエリアにおいて、JRが出動した件数は1割未満である、踏切事故などで警察対応時にはJRが出動しなければならない事がある。
- (組合) 出動は空振り覚悟で良いと風潮があるが、移管したのになぜJRが行かなくてはいけないのか。
- (会社) 初動で範囲の確認をして第2陣で行くことはある。確認してTEMSで良いなら引き上げる。
- (組合) TEMS単独で出動するために、変えたことは何かあるのか。
- (会社) これまでJRでのみ対応していた、緊急車両での出動について、車両の配備や講習を受講してもらい、TEMSでもできるようにした。また、勉強会を行って、これまでJRが担当していた検査業務をTEMSで担当してもらうようになった。
- (組合) 高度な判断が必要な障害対応の数はどれくらいか
- (会社) 輸送障害が発生しているものに関して、第一陣がTEMS、第二陣以降にJRというようにしている。障害の理由がはっきりしており、物を取り替えれば直るような事象については、TEMSが単独で復旧させることがある。
- (組合) **現場でも空振り覚悟という言葉に隠れることなく周知させること。**
- (会社) **第一陣はTEMSが対応することについて徹底している。**

7. 千葉信号通信技術センターでの時間外労働を削減するため、職場の実態に見合った工事計画を策定すること。また、サービス超勤防止に努めること。

【議論内容】

- (組合) 千葉以東では踏切踏切の数が多いために、踏切関係する工事が多い。今後踏切の数を減らしていくのではなかったのか。
- (会社) 踏切の数を減らす方向性であることはたしかであるが、段階を踏んでいる。使用し続けていけば、その間にも設備は老朽化していき、老朽取替の必要が発生する。実際に老朽取替工事が多くなっている。
- (組合) サービス超勤を無くすための指導は継続して行うこと。
- (会社) 労働時間の管理についての教育・指導は継続して行う。

10. 各系統で2019年度の修繕費が大きく減額されている理由を明らかにするとともに、安全で働きがいの持てる職場をつくりあげるために次年度は増額すること。

【議論内容】

- (組合) 職場の中で「予算が成長投資に振り向けられており、修繕費は減額されている」などと言われている。修繕費は減額となっているのか。
- (会社) 必要な予算は確保している。
- (組合) 職場の備品や設備が老朽化している。社員の安全確保のためにも改善すること。
- (会社) 危険な状態なら修繕しなければならない。社員を怪我させてはならないので、必要な予算は確保する。
- (組合) 年間の工事計画の偏りが超勤に繋がっている。年間で平準化を図ること。
- (会社) 劇的な改善は困難であるが、年間で平準化できるように努める。

重要!

- ・異常時はTEMSが第一陣で出動することを確認!
- ・労働時間管理についての指導は継続することを確認。
- ・工事量の平準化は今後も継続して取り組む。



組合員の声を基に団体交渉を積み重ね、働きやすい職場を全組合員で創ろう!